

(第76回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について

NO. 2-11	事業名 : サプライチェーンの迅速・柔軟な組換えに資する衛星を活用した状況把握システムの開発・実証 (終了時評価 / 制度評価) イノベーション推進部			
事業期間 : 2021年11月～2023年2月の2年度間		費用総額 : 4億円		
委員構成、ポートフォリオ 2020年5月にMETIで策定されたサプライチェーン強靱化に資する技術開発・実証事業についての委託先公募事業であり、NEDO初の懸賞金交付型事業であった。事業は短期の補正予算事業であったために、事前・中間評価は実施していない。本事業では、事業終了後にも引き続き、①NEDO支援プログラム活用への誘導 ②メディアによる追跡取材 ③NEDO広報誌の活用 を軸としたアウトカム目標への道筋明確に立て、1.成果の実用化 2.衛星利用の啓発 3.宇宙ビジネスの活性化 4.経済への波及効果 のアウトカム目標の達成を目指すものとしている。宇宙衛星技術を活用した新たなアプリケーション開発、実用化策のテーマ設定、公募、審査、メンタリング、表彰という一連の制度を評価いただくに当たり、専門家としては産官学連携、宇宙工学、宇宙ビジネス、AI開発、スタートアップ投資の知識経験を有する方を中心に委員選定を行った。*企業経験あり ・分科会長は、制度評価分科会長代理を経験しており、かつ大学では産学官連携の責任者であり民間企業でのご経験も持つ幅広く十分な知見を有する方を選定。 ・分科会長代理は、企業、自治体、スタートアップに対しアドバイスを行う傍ら、官公庁のコーディネータ等を歴任されるなど豊富なご経験を有し、NEDO事業カタライザーとしてNEDO事業にも深い理解を有する方を選定。 ・事業推進に必要な衛星データの活用方法を検討し環境整備する手法に関する評価。 ・懸賞金交付分野では、①テーマ設定、②審査者選定、③審査工程、④広報システム等に関する評価。 ・懸賞金交付後に、社会実装されるまでの道筋の立て方に関する評価。	委員名	NEDO委員歴		
	*中村 秀明 分科会長 山口大学 大学院創成科学研究科 工学系学域知能情報工学分野 教授	前身事業	事前評価	中間評価
	尾崎 典明 分科会長代理 エスファクトリー 代表			
	青木 英剛 委員 一般社団法人Space Port Japan 理事			
	木嶋 豊 委員 株式会社アイピーアライアンス 代表取締役			
中須賀 慎一 委員 東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授				
評価コメント				
肯定的意見	今後への提言			
<ul style="list-style-type: none"> NEDOとして初めてとなる懸賞金事業の採用により、応募者にとって制約が少なく、ベンチャー企業や若手研究者の応募が多く集まっており、狙いどりの成果が得られ、さらに、新たな懸賞スキームを使ったアウトカム達成までの道筋は明確であり、成果を得ることができたものと評価できる。 受賞者の多くが、アウトカム目標を達成すべく、事業化に向けた開発を既に進めていることは評価できる。 適切なテーマ選定と懸賞金額設定が多くの応募件数につながり、ワークショップ、外部の有識者などを活用した審査プロセス、成果の発信などの充実したプログラムが用意され、アウトカム目標が十分に達成されたと評価できる。 NEDO初の懸賞金事業を実施するに当たり、各プロセスを的確に設計運営し、「懸賞金交付等審査委員会」や実施者との密なる連携が図られ、推進部によるフォローと開発のスケジュール管理が適切に運用できたことは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙関連企業やスタートアップは知財の意識が低い場合があるので、特許に関する注意喚起を促すなど、「事業化に向けた知財関連のアドバイス」などがあると更によかったと思われる。 ユーザーになりうる省庁や自治体が最初の顧客になる流れを国とNEDOが支援できれば、より宇宙ビジネスが活性化するものとも思われる。 衛星データ活用の裾野を広げるためには、広範でかつ様々なプレイヤーが参加できるよう引き続き情報発信の更なる改善を行っていく必要があると思われる。 今後同様の事業を行う際には、公募周知期間の長期化や、提案募集期間に教育的なワークショップを実施するなど、周知方法と組織的な公募の内容充実への工夫も期待したい。また、衛星データについては、データベースはより選択肢を広げ利用できるようにすることを検討願いたい。 			